

視察成果報告書

令和 8 年 1 月 6 日

犬山市議会
議長 大沢 秀教 様

議員名 畑 竜介

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和 7 年 12 月 17 日(水) ~ 令和 7 年 12 月 17 日(水) (泊 日)
(2) 視 察 地	犬山市寺澤農園
(3) 視察の種類	耕作放棄地の解消・農業の担い手不足について
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	寺澤農園は、家業継承後 2 ヘクタールから約 41 ヘクタールへと規模拡大し、離農により生じた農地や耕作放棄地の受け皿として、地域農業を支える中核的担い手となっている。 米 36 ヘクタール・麦 6 ヘクタールを作付し、令和 7 年には補助金を使わずに自前資金で大型倉庫を整備し、収穫直後の脱穀・選別を自家処理できる効率的体制を構築している。 ドローン・AI・GPS 等の導入により、従来 1 週間かかっていた作業を 2 日程度に短縮し、生育予測データを活用した精密施肥・防除を実現。品質向上と省力化を両立し、一等米を安定生産するスマート農業モデルを体現している。 また、毎年約 2 ヘクタールずつ受託面積が拡大しており、今後は法人化や雇用創出が必要とされている一方、新規就農者の離農率の高さや、実際に生計を立てている農家との接続の重要性について、現場ならではの課題認識が示された。
(5) 犬山市に 対する提言	農業用水や水路管理については、担い手減少により地域での維持が困難になっている現状を踏まえ、行政と地域の役割分担を明確にしたうえで、年次的・計画的な整備と「見える化」を進め、防災面も含めた機能確保を図るべきである。 ドローンや AI などのスマート農業技術は、省力化や品質向上に大きく寄与しており、担い手不足対策としても有効である。市として導入支援を重点化するとともに、先進農家をモデルとして活用し、技術共有や研修の場を整備すべきである。

